

群 教 セ	F12 - 01
	平 17.230 集

中学校の道徳の時間・学級活動に役立つ 情報モラルの指導資料集の作成

特別研修員 櫻井 正 (高崎市立南八幡中学校)

(研究の概要)

本研究では、中学校における情報モラル教育の充実を目指して、道徳の時間・学級活動で役立つ情報モラルの指導資料集を作成した。道徳の時間・学級活動に情報モラルの指導を位置づけ、生徒にとって身近な場面での具体例を取り入れた指導計画や展開例、提示資料、ワークシートで構成した。作成した資料集を授業実践において活用することにより、教師の教材研究や指導に役立て、生徒の情報モラルを高める授業に役立てていった。

キーワード 【情報教育 情報モラル 道徳 学級活動 Web形式 ワークシート】

主題設定の理由

近年の情報技術の著しい進展により、中学校においても情報通信ネットワークが活用されるようになってきた。また、家庭におけるインターネットの普及率も高まり、生徒は学校内外で手軽に利用できるようになってきた。このような環境の中で、誤った情報や不適切な情報に遭遇したり、配慮の足りない言葉によって人間関係を壊したりといったトラブルも増えている。

本校の2年生52名を対象とした実態調査では73.1%の生徒が家庭でもインターネットを利用できる環境にあり、34.6%の生徒が日常的に携帯電話を利用している。利用目的は、Webページの閲覧100%、電子メールの利用46.2%が中心である。また、88.5%の生徒がネット被害の危険を感じていると回答しており、その場面として商品の購入46.2%やデータのダウンロード42.3%をあげている。しかし、具体的な問題を指摘できた生徒は半数程度であった。今までインターネットを利用して嫌な思いをしたことがあると回答した生徒は26.9%で、ほとんどの生徒が電子メールにかかわる内容をあげた。

このように、生徒はインターネットによる被害の危険性が高いと認識していながら、問題意識をもたずに既に利用している、または、これから利用したいと考えているという実態が明らかになった。こうした生徒の実態から、情報モラルを、社会生活を営む上で必要なマナーの一つとして体験的に習得させ、その意味や大切さを考え、守っていかうとする態度を育成する必要があると考える。

情報モラルの指導は各教科において「いつでも・どこでも・何度でも」繰り返し指導していくことが重要である。しかし、本校ではこれまで、情報モラルの指導は、技術・家庭科で扱う程度で、その他の教育活動においてはほとんど行っていなかった。これは、教師自身の情報モラルに対する意識の不足、中学生の実態に合った使いやすい教材が少ないことなどが原因であると考えられる。

そこで、本研究では道徳の時間・学級活動(以下、道徳・学活という)において、生徒の身近な情報活用の場面や対象を取り入れた指導計画や展開例、ワークシートなど、情報モラルの指導資料集を作成し、学級担任による情報モラルの指導に役立てていきたいと考え本研究主題を設定した。

研究のねらい

中学校の道徳・学活に役立つ情報モラルの指導資料集を作成し、授業実践を通してその有効性を明らかにする。

研究の見通し

以下のような手だてにより、ねらいに合った情報モラルの指導資料集が作成できるであろう。

教師の教材研究や指導に役立つよう、情報モラルと道徳・学活の内容を関連させ、指導計画や展開例、提示資料、ワークシートを作成する。

生徒の情報モラルを高めるために、身近な情報活用の場面や対象を取り入れた提示資料を作成する。

研究の内容

1 指導資料集の概要

(1) 基本的な考え方

ア 学級担任による情報モラルの指導

『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引き」～』（文部科学省 2002）には「情報モラルは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」とあり、「学校教育においては、生徒指導の充実とともに、道徳教育を通じた道徳性の涵養、特別活動を通じた社会の一員としての自覚と責任・・・（中略）など、学校教育全体を通じた取り組みが重要である」としている。こうしたことから、情報モラルの指導は生徒指導とのかかわりが深く、生徒の生活や行動の様子を理解し、家庭とのつながりをもつ学級担任が大きな役割を担っていく必要があると考える。そのため、学級担任が指導を担当する道徳・学活に情報モラルの指導を位置づけていくことが重要である。

イ 道徳・学活での指導に役立つ指導資料集

情報モラルの指導内容と中学校学習指導要領の道徳・学活の内容項目の関連を以下の表1のとらえた。そのうえで、本校の生徒の実態に基

づいた指導項目を設定し、指導資料集を作成することとした。指導資料集の作成に当たっては以下のような点で工夫していく。

提示資料は教室での指導を中心に考え、プロジェクト用の提示資料と印刷用の配付資料を作成する。

道徳の資料については年間指導計画に則したものとするため、読み物資料の補助資料として15分程度の時間で指導できる展開例や提示資料、ワークシートを作成する。

学活の資料については情報を活用する際の問題点を発見し、話し合い活動につながるよう、実際の活用場面を想定した展開例や提示資料、ワークシートを作成する。

プレゼンテーションソフトのアニメーション機能を活用して画像や発問・指示を提示することにより、生徒が画面に集中し、一人一人が自分の問題としてとらえやすいようにする。

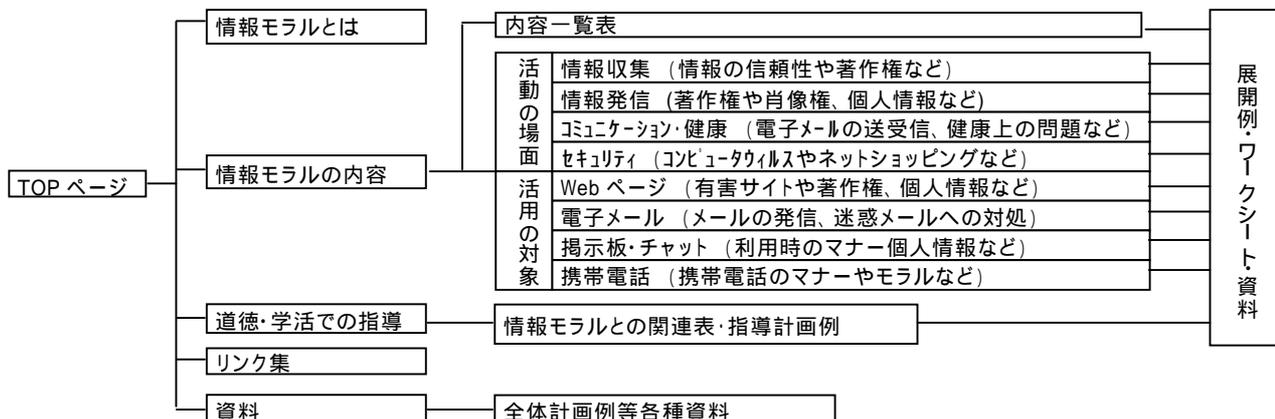
(2) 指導資料集の構成

本資料集は、図1のようにTOPページから、情報モラルの内容や道徳・学活の指導、リンク集、資料など、それぞれの項目のページが表示できるようになっている。

表1 道徳・学活の内容項目と情報モラルの内容の関連

	内容項目	情報モラルの指導内容
道徳	1-(1) 節度・自立 2-(1)、(2) 礼儀 思いやり 2-(1)、(2) 礼儀 思いやり 4-(2)、(3) 法や決まりの意義 公德心	インターネット中毒 いじめ・誹謗・中傷 ネチケット 著作権・知的所有権
学活	学級活動(2) ア 社会の一員としての責任と自覚 学級活動(2) ア 社会の一員としての責任と自覚 学級活動(2) ア 社会の一員としての責任と自覚 学級活動(2) ア 望ましい人間関係の確立 学級活動(2) イ 心身ともに健康で安全な生活態度 学級活動(2) イ 心身ともに健康で安全な生活態度 学級活動(2) イ 性的な発達への適応	ネットワーク社会におけるルール 個人情報の保護 携帯電話の使い方 人間関係の希薄化 インターネット中毒・健康への配慮 禁制品の売買等の有害情報 出会い系サイト

図1 指導資料集の構成

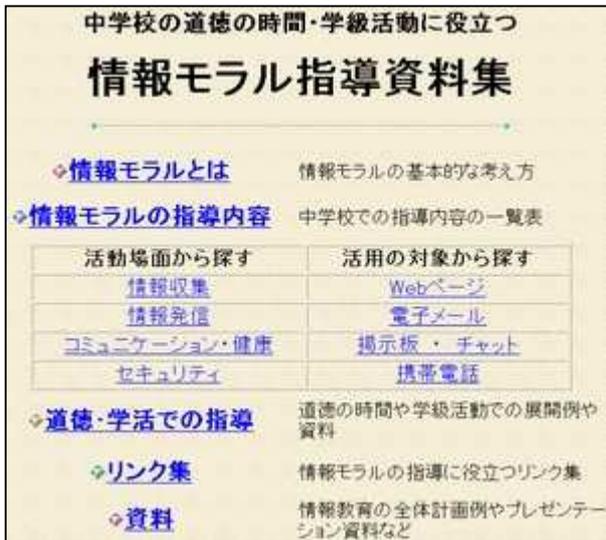


2 指導資料集の内容

(1) トップページ

このページからは、情報モラルの基本的な考え方や指導内容、道徳・学活での指導例、情報モラルの指導に役立つリンク集など利用目的に応じたページを選択できるようにする（図2）。

図2 トップページ



指導内容については一覧表のほか、活動場面・活用対象の両方から指導項目を探せるようにする。活動場面では情報収集、情報発信、コミュニケーション・健康、セキュリティ。活用対象ではWebページ、電子メール、掲示板・チャット、携帯電話とする。

(2) 情報モラルとは

情報モラルにおける基本的な考えを示し、情報モラルの指導の必要性を理解してもらえるように、中学生が巻き込まれそうな事例も紹介する。

表2 指導内容一覧表

場面	対象	指導項目
情報収集	Web ページ	情報の信頼性
	Web ページ	著作権の尊重 *展
	Web ページ	有害サイト
	Web ページ	個人情報の流出
情報発信	Web ページ	著作権の尊重
	Web ページ	個人情報の流出
	Web ページ	ユニバーサルデザイン
コミュニケーション・健康	電子メール	メールの発信 *展
	電子メール	迷惑メールへの対処 *展
	Web ページ	出会い系サイト
	掲示板・チャット	誹謗・中傷他 *展
	携帯電話	携帯電話の使い方 *展
セキュリティ	心身の健康	健康上の問題
	個人情報	個人情報の大切さ *展
	セキュリティ	コンピュータウィルス
	Web ページ	ネットショッピング

注：*展 は展開例があることを示す。

(3) 情報モラルの指導内容

中学校の情報モラルの指導内容として必要なものを一覧表にまとめる。表の上部には必要な項目を探しやすくするために、活動の場面・活用対象の両方のリンクメニューを設置する。

指導内容については生徒の実態や各種資料を検討し、必要性の高いものから13項目選定し（表2）すべての項目について指導内容・学習目標を示し、プレゼンテーション用の資料や、作成した展開例にリンクできるようにする。

(4) 道徳・学活での指導

道徳・学活の内容項目と情報モラルの内容との関連を示した表と、学年に応じた指導内容例を示し、指導内容例から展開例のページが開けるようにする。展開例のページ（図3）からは、授業の提示資料や配布資料、ワークシートを提示できるようにする。なお、展開例については本校生徒の実態を踏まえ、道徳・学活ともに各学年1事例ずつ、計6事例を作成する。

図3 3年道徳展開例の一部

道徳展開例 3年	
主題名 心のふれあい	
資料名	「ごあいさつのすすめ」 中学道徳③ 東京書籍
内容項目	2-(1) 礼儀・適切な行動
情報モラル	ネチケット
ねらい	社会生活における礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。
場所	教室
教材	提示用資料 (pptファイル) 印刷用資料 (PDFファイル) ワークシート (PDFファイル) (Wordファイル)
時	生徒の主な学習活動 指導上の留意点
1	あいさつについて話し合う。 ○「心のノート」P38、39を読ませ、礼儀について今の自分を振り返らせる。
5	①学校であいさつ運動などが設け

道徳の資料については、各学年の年間計画に基づき、下の表3のように本校で使用している読み物資料と関連させ、展開例と資料を作成する。

表3 道徳の読み物資料と情報モラルの指導例

学年	資料名(東京書籍 中学道徳)	情報モラルの内容
1	「無人スタンド」	著作権など
2	「住みよい社会に」	誹謗・中傷
3	「ごあいさつのすすめ」	コミュニケーション

学活の資料については1学年では個人情報盗まれる可能性のあるWebページの例、2学年では迷惑メールの例、3学年では携帯電話の使用に関するトラブルとその対処法を扱う。

図4 各学年・領域の提示資料

<p>1年道徳 著作権</p> <p>だれも見えていないところで...</p>	<p>2年道徳 掲示版</p> <p>監視について</p> <p>[0]零 05/11/02 11:24 監視について話しませんか？</p> <p>[1]琴音 05/11/02 11:25 興味あるのですが、本当にそういうこと</p> <p>[2]ケン 05/11/02 11:28 監視？ばかじゃないの？お前、とりあえ</p> <p>[3]零 05/11/02 11:30 >>2 手めんが死ぬwww</p>	<p>3年道徳 ネットケット</p>
<p>1年学活 個人情報</p> <p>教えてください。</p> <p>こんにちは。わたしたちは高崎の中学生です。今度東京へ個別学習に行きます。それで、浅草か、お台場あたりでランチがお勧めのお店を教えてください。予算は1000円以内で、和食がいいです。できれば下記の携帯かメールでお返すください。</p>	<p>2年学活 迷惑メール</p> <p>バケット通信料</p> <p>あなたヤバイです。5人に転送してください。このメールを止めた人はこのメールを回してきた皆様のバケ料を払わなければなりません。回していただけたらバケ料は無料とさせていただきます。チェーンメールだと思って馬鹿にしないで下さい</p> <p>バケット通信料 ¥9,351,140(概算) 実際の請求額は上記金額と異なる場合があります。</p>	<p>3年学活 携帯電話</p> <p>携帯電話の使い方</p> <p>携帯電話は本当に必要だろうか？</p> <p>携帯電話の機能と利用状況 携帯電話の便利な点とトラブル トラブルへの対処</p>

提示資料(図4)はプレゼンテーションソフトのアニメーション機能を利用し、実際の活用場面としてとらえやすいようにする。また、提示資料のみで授業ができるよう、生徒に配布する印刷用の資料もPDFファイルで用意する。

ワークシート(図5)は、使用する教師が生徒の実態に合わせて工夫できるようにPDFファイルのほか、ワープロ形式のファイルも用意する。

図5 2年学活のワークシート

電子メールを正しく使おう ワークシート	
年 組氏名 _____	
電子メールの良さって何？(電話・手紙・電報とくらべてみよう)	
.....	
こんなメールが届いたらあなたはどうしますか？	
プレゼントのお知らせ(どこの会社から)	(理由)
バケット通信料(友達から)	(理由)
幸せのメール(友達から)	(理由)
24時間テレビ(友達から)	(理由)
Rh-輸血依頼(友達から)	(理由)
授業を振り返って よくてきた◎・できた○・もうひといき△	評価
○電子メールの使い方を自分自身の問題として考えることができた。	
○迷惑メールを受信したときどうすればよいかわかった。	
○情報を発信したり受信したりするときには正確さに気をつけようと思う。	
感想	
.....	

(5) リンク集

教師が情報モラルを指導しようとする際に参考となるWebサイトを集めてリンク集を作る。リンク集には、「情報モラル教材一般」「著作権関連」「資料」などの項目を設ける(図6)。

図6 リンク集

情報モラルの教材に関するWebページ	
情報モラル研修教材	インターネット上の様々な理され、指導案も掲載され
情報通信白書for kids	総務省の小中学生向けの気通信、放送、郵便といから理解できます。
サイバーネットケット コミック	ディズニーのキャラクターについて勉強できます
インターネットを利用する子供のためのルールとマナー	インターネットの基本事項や電子メールについて
ネット社会の歩き方	アニメーション教材やオンラインがあります。指導事例
情報処理振興事業協会(IPA)セキュリティセンター	コンピューターウイルス対策について書かれていま

(6) 資料

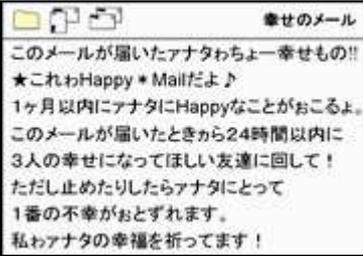
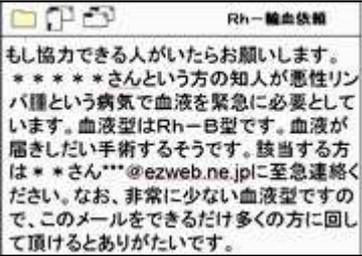
資料のページには情報教育の全体計画例(PDFファイル)や本資料集の展開例で使用している提示資料の一覧があり、各項目のプレゼンテーション用の資料などを表示できるようにする。

3 授業実践

作成した指導資料集の有効性を検証するために次のような実践を行い、教職員・生徒のアンケートやワークシートの見取りから検証した。

(1) 授業実践1

第2学年1組(22名)の学級活動において、電子メールの理解と迷惑メールへの対処、情報発信する際の責任などについて、次のように授業実践を行った。

主な学習活動	学習への支援と留意点	生徒の反応
アンケート結果から電子メールの活用について話し合う。	事前に実施したアンケート結果を示し、学級内の電子メールの利用状況を把握させ、本時の学習への意欲をもたせる。	・学校外の友達やインターネットで知り合った人と、電子メールによる交流がある友達がいることに驚いた様子であった。
電子メールの長所と短所を話し合う。	電話や手紙など他の通信手段と比較させることで、電子メールのメリットを考えさせる。生徒の経験から、電子メールに関するトラブルに気付かせ、電子メールのデメリットを考えさせる。	・手紙と比べて手軽で情報のやり取りが瞬時にできること、電話と比べて読み返せることや、時間の融通がつくことをあげるものが多かった。 ・チェーンメールが来たという声があった。
問題となるメールについて話し合う。 スパム系メール 恐怖系チェーンメール 幸福系チェーンメール デマ系チェーンメール 善意系チェーンメール	教師用のコンピュータからプロジェクトによって五種類のメールを扱った自作資料を提示する。一つずつ順に提示し、問題となるメールへの対処を考えさせる。五種類のメールについてどう対処するべきかをグループで話し合い、全体の場で発表させる。	・画面に集中していた。 
提示した自作資料の一部	 	・ワークシートへの書き込みでは、は送ると答えたのは1名、は4名。は送ると送らないが同数の11名、は送るが13名となった。 ・をどうするかで話し合いが活発になった。
迷惑メールに対する対処の仕方を話し合う。	チェーンメールについては、もともとは善意から始まったものでもチェーンメールとなると多くの人に迷惑がかかることを考えさせる。メールアドレスなど個人情報の大切さについても触れる。	・画面で、もう一度確認しながら話し合った。 ・善意系のメールの対応に悩んでいた。 ・「本当かどうか確認してから送ればいい」という声もあったが、確認先の対応を想像させることにより考えが深まった。
電子メールについての教師の話聞く	情報の送受信には情報の正確さを確認することが大切であり、不確かな情報は発信するべきではないことを知らせる。マイナス面ばかり強調せずメリットについても補足しておく。	 ・チェーンメールを送った経験があったり、受信を不安に思っていたりしている生徒が多く、真剣に聞いていた。 ・メールの科学的な仕組みを話すことで、安心した様子であった。
学習のまとめをする。ワークシートに自己評価を行い、感想を書く。	話し合い活動から気付いたことや考えたこと、これからの生活に生かしたいことなど、自分の言葉で表現させる。	・感想は後述

(2) 授業実践2

本指導資料集を活用した学級担任による指導。

対象	指導内容(領域)	使用した資料
1年	個人情報の大切さ(学活)	提示資料・ワークシート
2年	誹謗・中傷(道徳)	配布資料・ワークシート

(3) 教職員の試用

校内研修で、作成した資料集を試用し、取り上げた内容や提示資料や展開例・ワークシート等の感想を聞いた。

4 結果と考察

(1) 教師の教材研究および指導に役立つ情報モラルの指導資料集であったか。

授業実践1では教室でプロジェクタを用いて資料を提示したところ、22名中21名の生徒が自分の問題として考えることができたと答えていた。実際に今回出回っている迷惑メールを提示したことによ

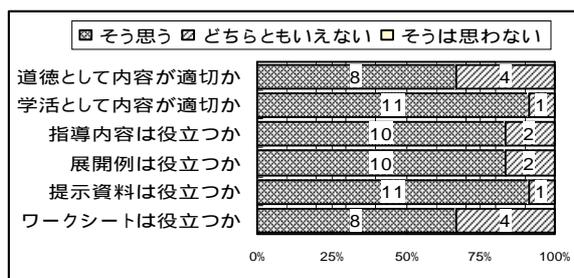
り、「こういうの来たことある」という声も上がり、話し合いも活発に行われた。

授業を参観した職員からは「生徒に必要な学習内容であり、有効であった」「資料は時代をよく反映したものであった」「提示の仕方やワークシートも工夫されていた」などの感想をいただいた。また、「提示するメールの精選か、授業の展開の工夫が必要では」との参考になる意見もあった。

授業実践2の授業者からは、「予想以上に生徒の反応がよかった」「生徒が提示資料に集中していた」という感想を聞くことができた。

授業実践1・2の後、教職員による試用を行い、教師12名を対象に本指導資料集についてのアンケートを行ったところ次頁の図7のような結果であった。各項目について約8割の教師から肯定的な回答を得ることができた。

図7 教師による指導資料集の内容の評価



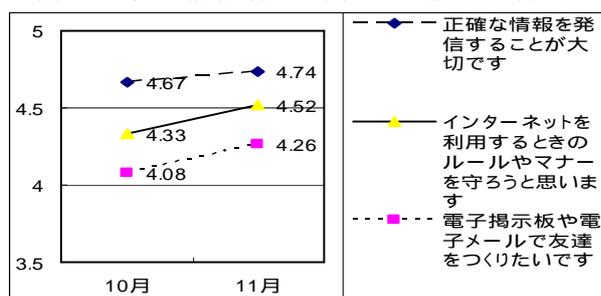
道徳について「単独の授業のほうが扱いやすい」、ワークシートについて「参考にはなるが、自分で作ったほうが使いやすい」という記述もあり、まだ工夫の余地があることが分かった。また、情報モラルについては「これからの生徒にとって必要な内容であり、学校全体で指導していかなければならないと思う」など情報モラルの指導の必要性、重要性を感じたという意見が得られた。

以上の結果から、本指導資料集は、道徳・学活における情報モラルの指導のための教材研究や授業に役立ったと考える。

(2) 生徒の情報モラルを高めるために有用な情報モラルの指導資料集であったか。

授業実践1の授業前(10月)と授業後(11月)に情報活用に関する意識調査を行った。その中から授業実践1に関連のある3項目についてその結果を比較したところ図8のようであった。グラフは5件法での回答を数値化し、平均値で比較した様子を示している(数値は高いほど好ましい)。

図8 生徒の情報活用に関する意識の変容



注：数字は、5あてはまる 4ほぼあてはまる 3どちらともいえない 2あまりあてはまらない 1あてはまらないの平均値

授業前からの値が高いため、大きな変化は認められないが、すべての質問項目で授業後に意識の高まりが見られる。「電子掲示板や電子メールで友達を作りたい」が伸びているのは、授業により電子メールの便利さを確認したことと、実際の活用場面を想定した資料をもとに、話し合いによって迷惑メールへの不安が解消されたことに起因する

ものとする。授業後の感想(図9)には、電子メールの利用の有無にかかわらず、今後の電子メールの活用に生かしたいという前向きな記述が多く見られた。

図9 授業後の感想

・今日の授業でメールのことがよくわかり、これからメールをしようと思っていたので役立てたい。
 ・だんだんとメールを使う機会が増えていくと思うけど、今日の授業でやったことを忘れずに、メールを活用したいと思う。
 ・迷惑メールを受け取ってたまに回してしまうこともあったけど、これからは本当かどうか、必要かどうかと考えるようにしようと思う。

以上の結果から、本指導資料集を利用した指導は生徒の情報モラルを高めるために役立ったと考える。

まとめと今後の課題

本研究では、中学校における情報モラル教育の充実を目指して、道徳・学活で役立つ情報モラル指導資料集を作成し、活用した。その結果次のような点が明らかになった。

情報モラルの指導を道徳・学活に位置づけ、展開例や提示資料などの教材を載せたことにより、教師の教材研究や授業に役立った。

生徒の身近な情報活用の場面や対象を扱う資料を用いることで、生徒の情報モラルの向上の一助となった。

また、被害の状況を知らせ、恐怖感を持たせるような指導に偏らず、情報の科学的な仕組みを理解させる指導を実施することによって、有効活用への意欲を低下させることなく情報モラルを高めることができることも明らかになった。今後は、道徳・学活での指導内容や展開の見直しとワークシートの改良を図り、体験型の教材を取り入れるなどして、より使いやすい指導資料集となるよう充実させていきたい。

<参考文献>

- ・赤堀 侃司/野間 俊彦/守末 恵 著 『情報モラルを鍛える』 ぎょうせい(2004)
- ・『インターネット活用ガイドブック モラル・セキュリティ編』 財団法人コンピュータ教育開発センター(2000)

(担当指導主事 平形 隆正)